

津山市の環境報告書

平成23年度版

(平成22年度実績報告・平成23年度行動計画)



津 山 市

はじめに

今日、地球環境問題に対しては、様々な取組みが世界的に進められています。特に地球温暖化の問題は、2020年に温室効果ガスを1990年比で25パーセント削減するとの目標を掲げ、国の総力を挙げ、実現に向けた取組みが進められています。

この大きな目標を達成するためには、私たちが住む地域社会においても、これまでの経済活動やライフスタイルを見直し、循環型社会の形成と環境が調和した暮らしを実現していく必要があります。限られたエネルギー資源を有効に利用し、そして、命をはぐくむ自然を守り、この美しい地球を次の世代に伝える事が私たちに課せられた大きな使命であると捉え、一人ひとりが、真摯に取組まなければならないと考えています。

さて、本年3月に発生した東日本大震災では、激震や大津波による甚大な被害をもたらしました。なかでも福島第一原子力発電所事故は、未だ収束が見られず、地域の皆さんへ多大なる不安と不信感を抱かせる結果となっています。

私たちの日常生活や経済活動に必要なエネルギーを安心して安定的に供給し、あわせて、地球温暖化問題に取り組むために、再生可能な新エネルギー導入への対策が急務であると考えています。

本市においては、平成22年度より「地球温暖化対策地域推進計画」、「津山市地域新エネルギービジョン」に基づき、住宅用太陽光発電システム設置補助事業を実施し、再生可能エネルギーの有効利用を市民の方に啓発し、積極的な利用をお願いしてきました。また、本年2月には、「津山市地域新エネルギービジョン」において重点テーマの一つである「バイオガスシステム」について、導入の可能性調査を実施し、本市での活用について検討を行っているところです。

今後も本市の地域特性を生かした新エネルギー導入を検討し、推進することにより、地球環境問題に対し地域から積極的に貢献するとともに、引き続き、地域振興や環境に対する市民の意識向上を図って参る所存です。

この環境報告書は、津山市環境基本計画に基づき、平成22年度における本市の環境の現状や環境施策の進捗状況と、平成23年度の行動計画をまとめています。市民の皆様が環境問題を身近に考えていただき、持続可能な循環型社会、“笑顔あふれるふるさと津山”の実現のため、この報告書をご活用いただければ幸いです。

平成23年11月



津山市長 宮地 昭 範

津山市環境報告書もくじ

第 1 章 津山市の環境の現状

- 1 環境の現状を伝える意義・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 「ビジョン」ごとの環境の現状・・・・・・・・・・・・・・ 1
 - 自然・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 - まち・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 - ひと・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
 - 循環・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

第 2 章 平成 2 2 年度の環境基本計画の実施状況とその評価

- 1 年次報告の意義・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 2
- 2 「ビジョン」ごとのプロジェクトの実施状況と評価・・・・・・・・ 1 2
 - 自然・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 2
 - まち・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 4
 - ひと・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 5
 - 循環・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 6

第 3 章 平成 2 3 年度の行動計画

- 1 年次行動計画の意義・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 8
- 2 「ビジョン」ごとの年次行動計画・・・・・・・・・・・・・・ 1 9
 - 自然・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 9
 - まち・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 9
 - ひと・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 0
 - 循環・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 0

第1章 津山市の環境の現状

1 環境の現状を伝える意義

この章の目的は、津山市の環境の現状を調査分析することで、市が抱えている環境問題を認識し、その問題を解決すべき課題として抽出することにあります。課題を抽出し、課題の解決に向けた目的目標の設定をすることで、達成するための計画の立案(Plan)、実行(Do)、評価(Check)、見直し(Action)といった一連のプロセスの繰り返し(PDCAサイクル)により、環境の改善が図れることとなります。

この章では、環境基本計画の「ビジョン」の区分毎に環境の現状を明らかにし、問題の分析をしています。

2 「ビジョン」ごとの環境の現状

自然

主な山岳・・・

中国山地の南面傾斜地として、1,000～1,200mの山々が、緑豊かな地域を形成しています。また、津山市北部は氷ノ山後山那岐山国定公園に指定されています。

山岳名	標高	位置
天狗岩	1196.6	加茂町倉見・苫田郡鏡野町境界
滝山	1196.5	大吉・勝田郡奈義町境界
三十人ヶ山	1171.7	加茂町倉見・苫田郡鏡野町境界
角ヶ山	1152.7	加茂町倉見・苫田郡鏡野町境界
爪ヶ城山	1115.0	大吉・奥津川
大ヶ山	989.8	加茂町倉見・加茂町知和・阿波
桜尾山	957.1	加茂町物見・鳥取県境界
公郷仙	862.0	加茂町公郷・加茂町下津川
大釈山	848.2	加茂町公郷・加茂町知和・加茂町下津川
天狗寺山	831.8	大篠・加茂町行重・加茂町成安
山形仙	791.1	新野山形・奥津川・西上
甲山	777.0	大吉
矢筈山	756.4	加茂町山下・加茂町知和
釈山	753.1	加茂町物見
入道山	752.3	上横野・苫田郡鏡野町境界
鳥山	701.0	大篠・吉見・綾部
寺山	681.6	加茂町青柳・加茂町戸賀・加茂町黒木
黒沢山	668.0	東田辺
矢倉山	659.5	宮部上・真庭市・苫田郡鏡野町境界

主な河川・・・

津山市中心部を一級河川吉井川が貫流し、これに加茂川や広戸川、皿川、久米川などの支流が交わり、水資源に恵まれています。

河川名	上流端	下流端	総延長 (m)	
吉井川	苫田郡鏡野町	岡山市	133,273	
支川	広戸川	津山市	18,045	
	加茂川	津山市	38,455	
	倉見川	津山市	17,000	
	皿川	久米郡美咲町	津山市	14,243
	久米川	津山市	津山市	12,368

(注) 延長 12,000 メートル以上のものを掲げた

空気・・・

自然にめぐまれた津山の空気は、県南の都市部に比べ、きれいな質を保っています。

岡山県による測定結果を見ても「望ましい環境」の基準を示す環境基準に照らし合わせても、適合しない日はほとんどない状況です。

年度	二酸化硫黄			二酸化窒素			浮遊粒子状物質		
	年平均値 (ppm)	1時間値が 0.1ppmを 超えた時間 数 (時間)	日平均値が 0.04ppmを 超えた日数 (日)	年平均値 (ppm)	1時間値が 0.2ppmを 超えた時間 数 (時間)	日平均値が 0.06ppmを 超えた日数 (日)	年平均値 (mg/m ³)	1時間値が 0.20mg/m ³ を 超えた時間 数 (時間)	日平均値が 0.10mg/m ³ を 超えた日数 (日)
平成17年	0.004	0	0	0.010	0	0	0.024	0	0
平成18年	0.004	0	0	0.009	0	0	0.026	14	2
平成19年	0.004	0	0	0.008	0	0	0.023	9	1
平成20年	0.004	0	0	0.008	0	0	0.023	0	0
平成21年	0.002	0	0	0.007	0	0	0.025	4	1

資料 岡山県環境保健センター

環境基準達成状況

対象物質	基準	達成状況
二酸化硫黄 (SO ₂)	日平均値が0.04ppm以下であり、かつ、1時間値が0.1ppm以下であること。	基準値を満たしている。
二酸化窒素 (NO ₂)	1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内またはそれ以下であること。	基準値を満たしている。
浮遊粒子状物質 (SPM)	1時間値の1日平均値が、0.10mg/m ³ 以下で、かつ、1時間値が0.20mg/m ³ 以下であること。	数件の不適合が検出される年もあるが、黄砂等突発的な要因と推察される。

河川水質・・・

河川の水質は、下水道や合併処理浄化槽などの汚水処理施設が整備されるにつれて改善しています。市では、河川17箇所(うち環境基準類型指定水域12箇所)、中小河川51箇所の水質を検査しています。

環境基準達成状況

対象	測定項目		水質検査 回数	環境基準 達成状況
		環境基準値		
河川水質検査 (17箇所、うち環境基準類型指定A6箇所、類型指定B6箇所)	水素イオン濃度 (pH)	類型A	年2回	100%
		類型B		100%
	生物化学的酸素要求量 (BOD)	類型A		91.6%
		類型B		100%
	浮遊物質 (SS)	類型A		100%
		類型B		100%
	溶存酸素量 (DO)	類型A		100%
		類型B		100%
	大腸菌群数	類型A		25%
		類型B		50%
水温、全窒素、全りん、溶解性マンガン、溶解性鉄、全クロム、銅、鉛、亜鉛			年1回	
	pH(水温)、BOD、DO		年2回	

MPN(most probable number) :

最確数。大腸菌群の数値を確率的に算出する方法を用いて推定した数に用いる単位。

資料 環境生活課

地下水・・・

市では、地下水の測定を毎年行いますが、平成22年度の結果は以下のとおりです。

環境基準達成状況

測定項目	測定結果	環境基準値
	近長地内	
六価クロム	定量下限値(0.02 mg/ℓ)未満	0.05mg/ℓ以下
ふっ素	0.11 mg/ℓ	0.8mg/ℓ以下
トリクロロエチレン	定量下限値(0.002 mg/ℓ)未満	0.03mg/ℓ以下

ダイオキシン類・・・

環境中にあるダイオキシン類

の量を把握するため、岡山県がダイオキシンを測定しています。

平成21年度に行った4項目410地点での測定結果によると、環境基準を満たしていました。

環境基準達成状況(平成21年度)

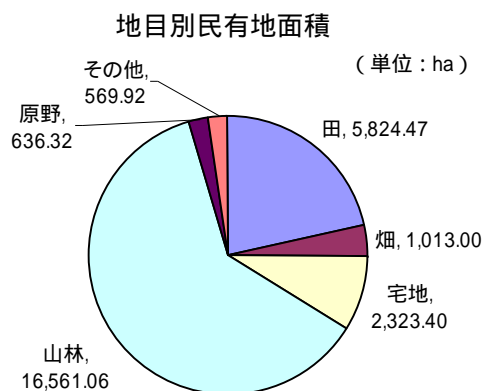
種類	資料採取場所	測定値	環境基準	単位
大気	山下地内	0.024	0.6以下(年間平均値)	pg-TEQ/m ³
河川水質	吉井川嵯峨堰	0.063	1以下(年間平均値)	pg-TEQ/l
地下水質	近長地内	0.044	1以下(年間平均値)	pg-TEQ/l
土壌	西下地内	0.037	1,000以下	pg-TEQ/g

資料 岡山県環境白書平成22年度版

森林・・・

市面積の約6割が森林に覆われて、そのうち約2/3を人工林が占めています。

しかし、林業従事者の減少などにより、人工林の間伐が十分行われていない等、管理が行き届いていない森林が多く、このことは、地面に光の届かない、うっそうとした森が増えていることでもあり、生きものの住みにくい環境を作り出しています。

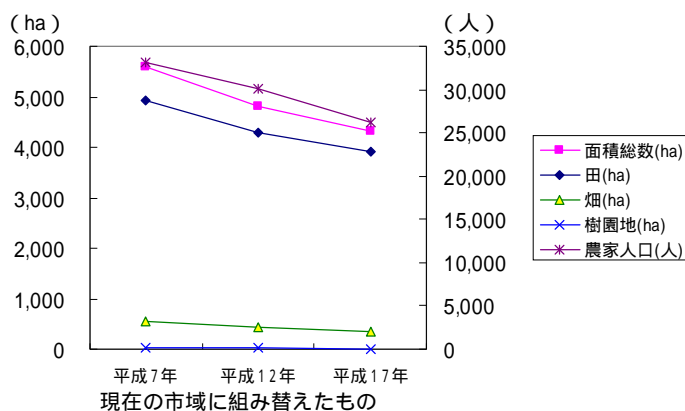


資料 固定資産概要調査

農地・・・

後継者不足により農業者が減少するにつれ、経営耕地面積は減少しています。これは全国的な傾向であり、各地で農地の活用・保全に向けた取り組みが始まっています。

経営耕地面積・農家人口



資料 農林業センサス

国定公園・自然保護地域・・・

津山市は、その大半が森や農地で占められており、吉井川がまちの中心部を流れるなど、自然に恵まれたまちです。

この自然を守るため、次の地区について国・県・市は、それぞれ、公園、自然保護地域として指定しています。

自然公園法、岡山県立自然公園条例、岡山県自然保護条例、津山市環境保全条例に基づき指定。

自然公園法に基づく国定公園

名称	所在地	指定年月
氷ノ山後山那岐山国定公園	阿波、大岩、大吉、奥津川、加茂町青柳、 加茂町倉見、加茂町黒木、加茂町知和	昭和44年4月

岡山県立自然公園条例に基づく県立自然公園

名称	所在地	指定年月
湯原奥津県立自然公園	加茂町倉見	昭和45年5月

岡山県自然保護条例に基づく郷土自然保護地域

名称	所在地	面積(ha)	指定年月
矢筈山地域	加茂町知和・加茂町山下	84.7	昭和57年3月
中山神社の社叢 <small>しゃそう</small>	一宮	6.78	平成4年3月

岡山県自然保護条例に基づく郷土記念物

名称	所在地	指定年月
山形八幡神社の森	新野山形	昭和62年3月
物見神社の社叢 <small>しゃそう</small>	加茂町物見	平成13年3月
宝蔵寺の森	加茂町齋野谷	平成16年3月

津山市環境保全条例に基づく自然環境保護地区

名称	所在地	面積(ha)	指定年月
黒沢山地域	東田辺・山方・上横野	613	昭和48年9月

津山市環境保全条例に基づく郷土自然保護地区

名称	所在地	面積(ha)	指定年月
神楽尾山地域	総社・小原・上田邑・一宮	693	昭和48年9月
神南備山地域	一方・井口・大谷・横山・八出・小桁・種	564	昭和48年9月

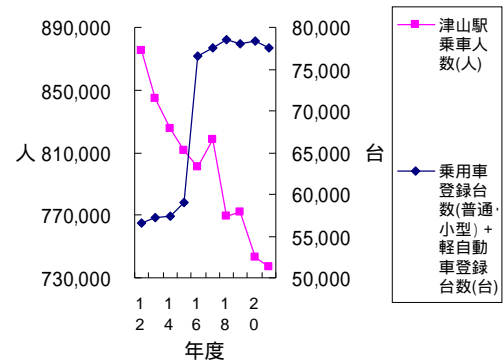
まち

交通・・・

自動車社会化の進展に加え、バスについては赤字路線から民間事業者が次々と撤退し、公共交通の利用が年々減っています。

市では、平成22年3月に「津山市地域公共交通総合連携計画」を策定し、維持継続できる地域公共交通体系づくりを基本方針として、利用者の増加を図るための取り組みを実施するとしています。

津山駅乗車人数と自動車登録台数



平成17年度以降は全域の台数。

資料 西日本旅客鉄道・岡山運輸支局・市課税課

騒音・・・

騒音の発生源は多様ですが、自動車の走行も発生源のひとつです。

市では、毎年、都市計画区域内の道路に面する地域とそれ以外の地域で測定を行っていますが、平成22年度の結果は以下のとおりです。

騒音測定調査結果

環境基準対象区域

種別	測定地点数	時間帯	環境基準達成地点数	達成率
道路に面する地域	5	昼間	5	100%
		夜間	5	100%
上記以外の地域	4	昼間	4	100%
		夜間	4	100%

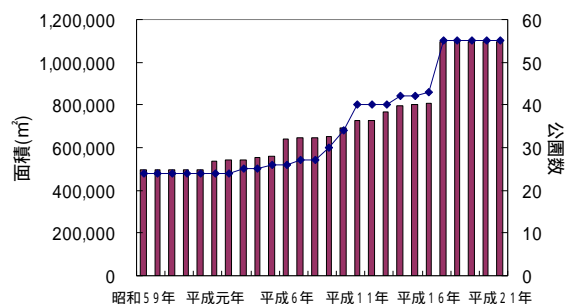
このほか11箇所において、騒音測定を実施している。

資料 環境生活課

公園・・・

津山市は、古くからの歴史を有するまちであり、市内の緑地にも歴史的な特色が感じられます。平成12年3月に制定された『緑の基本計画』に基づき、津山市の歴史的風土や良好な自然環境等の地域の特徴をいかした整備が進んでいます。

都市公園の状況



平成16年度までは津山地域の都市公園数・面積、平成17年度以降は全域の都市公園数・面積。

資料 公園緑地課

都市型公園の状況

名称	面積 (ha)	施設
グリーンヒルズ 津山	28.8	駐車場 800 台、ガラスハウス (5,276 m ²)、リージョンセンター (1,668 m ²)、レストラン (407 m ²)、フラワーガーデン、ウォーターガーデン、野外ステージ、トリムの森のわんぱく城、花時計他

資料 公園緑地課

その他公園の状況

区分	所在	面積 (m ²)	施設
兼田児童公園	川崎	3,300	広場、遊具、修景施設
塔中コミュニティ公園	加茂町塔中	2,493	〃
人咲く・水と森の郷 川の学校公園	加茂町公郷	9,000	〃
竹之下レインボー園地	阿波	1,349	広場、修景施設
釜森公園	阿波	2,806	広場、ゲートボール場、修景施設
一ノ渡公園	阿波	814	広場、修景施設
ホテルの里公園	宮部上	15,687	広場、簡易炊事棟、キャンプ場
花と溪流の里公園	八社	5,355	修景施設、遊歩道
油木上公園	油木上	4,074	広場、修景施設
計	9ヶ所	44,878	

資料 公園緑地課

ひと

人口・・・

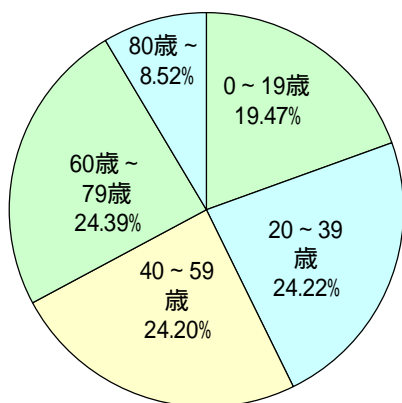
平成17年、平成22年の国勢調査によると、人口は微減傾向にあり、少子高齢化が進んでいます。

人口の状況

	合計	男	女
平成17年	110,569	52,418	58,151
平成22年	106,788	50,787	56,001

資料 国勢調査

年齢別総人口



0～19歳	21,032
20～39歳	25,290
40～59歳	26,140
60～79歳	26,346
80歳～	9,201
合計	108,009

平成23年1月1日現在。

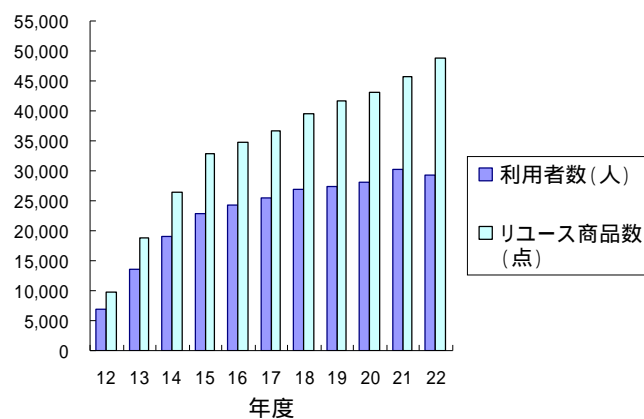
資料 市民課

市民の環境活動への関心・・・

市民の環境活動の関心の度合いを数値的に把握することは難しいことですが、リユースプラザ津山「くるくる」の運営状況がそれを示すひとつの指標と考えられます。

それによると開館以来、利用者数は年々増加傾向にあり、「くるくる」が市民の間に定着するとともに、環境活動への関心が高まりつつあると推察できます。

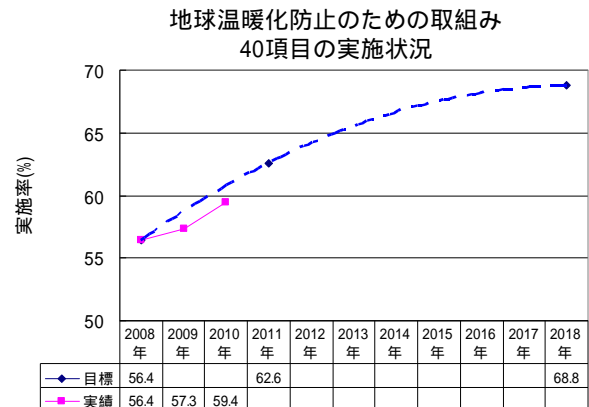
リユースプラザ「くるくる」の利用状況



資料 環境事業所

市民の地球温暖化対策の取組み・・・

市では、「津山市地球温暖化対策地域推進計画」の取組み状況を図るため、毎年市民アンケートを行っています。そのアンケート結果によると、取組みの実施率は前回調査より向上しており、家庭における地球温暖化対策が進んでいることがうかがえます。



資料 環境生活課

事業者の環境活動への関心・・・

事業者の環境活動への関心の度合いを測る「ものさし」のひとつとして、環境マネジメントシステムの取得状況が挙げられます。

それによると、市内で認証を取得している事業所は年々増加しています。また、市が開催する企業向けISO14001セミナーには津山圏域の認証取得企業、取得予定企業が参加しており、企業の参加事業者の環境活動への関心の高まりが推察されます。

ISO14001認証取得事業所の主な業種

金属加工	情報技術開発
繊維、繊維製品製造	医療、在宅介護支援、訪問介護、保健サービス
電子・電気部品製造	電子機械器具製造
紙製品製造販売	コンビニエンスストア
再生資源処理加工	ショッピングセンター
環境緑化製品製造販売	スーパーマーケット
高発泡プラスチック製品製造	

津山市内のISO14001認証取得事業所の主な業種を掲載

ISO14001セミナーの開催状況

年度	内容	参加企業数
平成15年	「コスト削減に役立つ・効率的な取得ができる」事例報告	28社
平成16年	ISO14001の規格改訂内容の説明	10社
平成17年	ISO14001:2004規格改訂の解説及び規格改訂後の審査の状況について	11社
平成18年	環境関連法規の調査方法と定期的な順法評価の手順について	15社
平成19年	熟成期のISO14001の課題	9社
平成20年	経営管理ツールとしてのISO14001の有効活用法	13社
平成21年	ISO14001の事例研究と運用改善のポイント	11社
平成22年	ISO14001運用改善のポイントと今後の展開	8社

資料 環境生活課

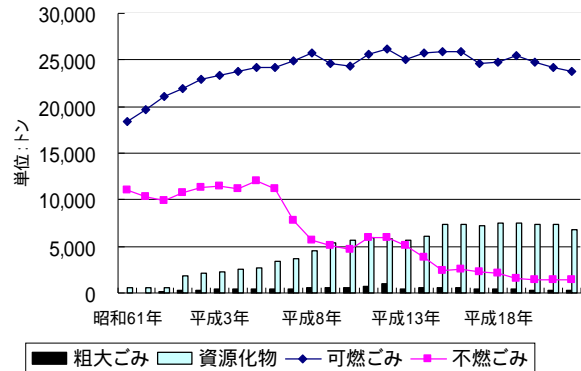
循環

ごみ・・・

ごみ最終処分場の埋立残余年数が少なくなり、「ごみ非常事態宣言」を出したのは平成7年のことです。その後、可燃・不燃ごみの有料化（平成9年度）、プラスチック容器包装の回収（平成14年度）、青空リサイクルプラザの開設（平成15年度）により、不燃ごみは減少し、資源化物の回収量が増加しています。

最終処分場は、平成21年3月末で埋立終了となり、現在、不燃ごみについては、県外に持ち出して処分しているのが現状です。

ごみの排出量



ごみの排出量

可燃ごみ・不燃ごみは、旧津山市地域・加茂地域・阿波地域の合計。粗大ごみは、旧津山市地域の合計。資源化物は、旧津山市地域・加茂地域・阿波地域・集団回収・青空リサイクル・くるくるでの回収の合計。

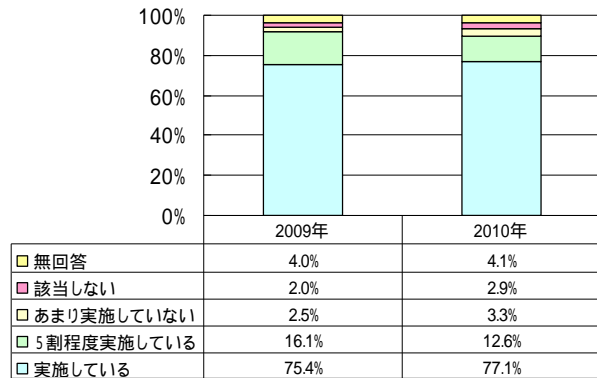
資料 環境事業所

資源化物としての排出・・・

市では、町内の資源回収場所の他、廃品回収や青空リサイクルプラザ等で、資源化物の回収を進めています。

市民アンケートの結果によると、『資源化できるものは資源化物として出している』の問いに、約8割の人が実施していると回答し、実践していることがうかがえます。

資源化物としての排出



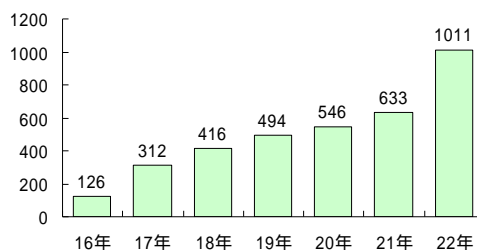
資料 環境生活課

太陽光発電・・・

太陽光発電設備の低価格化が進むとともに、市民・事業者の関心の高まりから、市内での設置件数も増加しています。

また、平成20年度から国の住宅用太陽光発電導入支援対策費補助金が復活し、津山市でも平成22年度から独自の補助制度を設け、太陽光発電設備の推進を行っていることから、今後の増加も期待できます。

住宅用太陽光発電設備の設置状況



各年10月末現在。
入手可能なデータから作成しているため、網羅的に把握できているとは限らない。

資料 中国経済産業局

トピック

津山市地域新エネルギービジョン 重点テーマ「津山市バイオガスシステム導入可能性調査」を策定しました。

地球温暖化対策として、石油エネルギーから太陽光、風力、バイオマス等、枯渇の心配が無く、二酸化炭素の排出もない特徴を有する新エネルギーへの転換・導入・普及が課題となっており、津山市ではこの課題の解決に向け、平成21年度事業として「津山市地域新エネルギービジョン」を平成22年2月に策定しました。

この、ビジョンのなかで、循環型社会の形成を目指した新エネルギー導入施策の一つとして、有機性廃棄物によるメタン生成を示しており、メタンの熱利用、発電利用及びコージェネレーションシステムによる熱・電気の併用利用のほか、メタンを活用した燃料電池への応用等を提案しています。

新エネルギービジョンで示した施策を展開し、新エネルギー導入事業をスムーズかつ効率的に実施していくためには、事業実施による効果、事業実施に係るコストの検討等、詳細な事業化可能調査が必要です。

津山市地域新エネルギービジョン重点テーマ「津山市バイオガスシステム導入可能性調査」は、有機性廃棄物によるメタンの利活用事業を円滑に実施するために、原料の供給、製造施設の規模、バイオガスの需要状況等を把握・分析し、事業化に向けた可能性について、確度の高い指針を得ることを目的に策定しました。

市内の5小学校に木質ペレットストーブを設置しました

地球温暖化対策として、公共施設における木質バイオマスの導入を図るため、平成21年度に引続き、平成22年度も市内5小学校（一宮小学校、高倉小学校、高田小学校、高野小学校、清泉小学校）に木質ペレットストーブを設置しました。

木質ペレットの原料は、おが屑やかんな屑等の製材廃材や林地残材等で、樹木から発生したものを使用しています。樹木は成長過程で光合成する時、大気中の二酸化炭素を吸収しており、木質ペレットを燃やして出る二酸化炭素は、樹木が大気中から吸収した二酸化炭素が、再び大気中に戻るようになります。大気中の二酸化炭素は樹木を通して循環し、吸収と排出が等しいことから、この循環を「カーボンニュートラル」と呼んでいます。木質ペレットは、石油由来燃料と異なり、新たな二酸化炭素を排出しないことから、地球温暖化対策として期待されております。

木質ペレット：おが屑やかんな屑等の製材廃材や林地残材等を圧縮・成型した小粒の固形燃料のこと。ペレットストーブ、ペレットボイラー等の燃料として用いられています。

第 2 章 平成 2 2 年度の環境基本計画の実施状況とその評価

1 年次報告の意義

この章では、平成 2 2 年度の環境施策の実施状況だけでなく、その成果や課題についても明らかにしています。これは、次年度以降の施策の継続的な改善を手助けするためのものです。

また、今回の報告では、行政の施策だけでなく、市民や事業者の環境活動についても同じ形式で報告しております。したがって、各主体の実施状況と関連を把握することができます。

2 「ビジョン」ごとのプロジェクトの実施状況と評価

ここでは、「ビジョン」ごとにプロジェクトの平成 2 2 年度目標・実施状況・目標達成状況・課題等を記載しています。

目標達成の評価	マーク	判定内容
		目標以上の成果を挙げている
		目標を概ね達成している
		目標達成に向け施策・事業が進んでいる
	x	目標達成に向けた取組みが不十分

自然

きれいな空と大地を守るまち・・・

プロジェクト	実施主体	目 標	実 施 状 況	目標達成	課題等
農業の適正使用及び回収処分の推進	協 働	広報回数：3回	JA つやまと市が連携して、農業の適正使用について農業事業者へ啓発するとともに、本庁・支所でのポスター掲示・チラシ配布、支所の防災無線・有線放送による啓発を実施した。 広報回数：3回		
		農業の回収回数：1回	JA つやまが、期限切れ廃棄農業の回収処分を実施した。 農業の回収回数：1回		
大気質や土壌質のデータ調査及び公表	市・県	環境基準の達成	岡山県により、市内で大気質・地下水質の調査が行われた。		大気、地下水いずれも環境基準を満たした。

川面に吹く風の心地よいまち・・・

プロジェクト	実施主体	目 標	実 施 状 況	目標達成	課題等
生活排水による水質汚濁の防止	市	下水道普及率：35.5%	公共下水道整備事業を行い、平成 2 3 年 3 月現在で、普及率 3 4.6% を達成した。		下水道への接続促進
		合併浄化槽設置補助基数：320基	合併浄化処理槽設置補助事業を行った。 合併浄化槽設置補助基数：271基		
河川清掃の実施	協 働	河川清掃参加人数：3500人	市内を流れる吉井川・宮川・蘭田川の河岸を、周辺の 46 町内会に呼びかけ、6 月 6 日に「第 3 8 回河川清掃」を実施し、事業者・行政等からのボランティアも含め 3,000 名が河川清掃活動に参加した。		河川清掃参加者の増加に向け、効果的な広報活動の検討が必要。

プロジェクト	実施主体	目 標	実 施 状 況	目標達成	課題等
自然体験プロジェクト「水の学校」	協 働	参加人数： 50人	学習内容から募集対象を「小学生4・5・6年生と同伴者」と限定したことから、参加申込者数が減少した。 参加人員：30名		学習内容から小学生全学年を対象とする と学習効果が期待できない。
公共下水道の啓発	市	下水道教室 参加親子数： 20組	公共下水道の啓発として、小学校4年生を対象に「夏休み親子下水道教室」を開催した。 参加親子数：19組		
		浄化センター見学人数： 500人	352人の受入れを行った。		
河川等の水質測定及び測定結果の公表	市	河川水質の環境基準の達成	主要河川17地点及び市内中小河川51地点の水質測定を8月・12月に実施し、概ね基準達成していることを確認した。		

心のふるさと里山里地の豊かなまち・・・

プロジェクト	実施主体	目 標	実 施 状 況	目標達成	課題等
植林地の管理	市・県	間伐面積： 530ha 森林整備面積： 3,856ha	森林整備は適切に行われた。 間伐面積：598.8ha 森林整備面積：4,874.8ha		
遊休農地の活用の推進	「市民農園」の運営 協 働	事業の実施 発生した残余区画の利用	一斉清掃、夏及び秋の収穫祭を開催した。 全区画契約（37区画）		
	放牧モデル事業の実施 市	事業の実施	遊休農地に繁殖和牛を放牧し、安全な放牧環境の整備を行った。		
自然体験プロジェクト「森の学校」	協 働	参加人数： 各30人	久米山をフィールドとして、11月13日、2月12日に事業を実施した。 イベント参加者数：28名、40名		



まち

未来を拓く地産地消のまち・・・

プロジェクト	実施主体	目標	実施状況	目標達成	課題等
学校給食に地場産食材の導入	市	年間使用食品数(%) 38%	小学校に地場産食材を利用した献立を導入し、平成15年12月より月1回「地場産の日」を設定し、実施した。 平成20年9月より稼働した戸島学校食育センターにおいては、ほぼ毎日地場産物を使用した給食を提供している。 実施率：31.2%		農産物は、天候により出来が左右されるため、計画的な生産等、安定した生産供給体制の確立が必要。

安全安心で活気があふれる楽しいまち・・・

プロジェクト	実施主体	目標	実施状況	目標達成	課題等
快適な音や匂いのある環境の整備	市	騒音についての環境基準の達成	主要道路沿いと住宅地等の騒音測定を実施した。 (測定結果はp.5)		

環境と歩行者を優先するまち・・・

プロジェクト	実施主体	目標	実施状況	目標達成	課題等
公共交通の整備及び利用促進	市	津山市地域公共交通総合連携計画に基づき、実証運行等を実施。	路線の見直しに伴う新しい利用者層により、ごんごバスの乗車数が増えた。		バス乗り継ぎについて、更なる利便性の向上が必要。



ひと

人や情報が交流するまち・・・

プロジェクト	実施主体	目標	実施状況	目標達成	課題等
市民参画、参加による環境基本計画の推進	協働	事業の実施	環境基本計画推進組織であるエコネットワーク津山の運営委員会に、市がオブザーバー参加し、運営支援を行った。 平 エコネットワーク津山 http://www3.tvt.ne.jp/~econet/		会員拡大に向けての対策づくり。
環境基本計画に係る年次行動計画・年次報告書の策定と公表	市	事業の実施	平成 22 年 9 月に環境報告書を発行し、年次行動計画・年次報告書を公表した。		
環境マネジメントシステムの普及	市	講習会又は企業等との合同行事の開催：1 回	津山圏域の ISO14001 認証取得企業及び圏域工業会加入企業等を対象に、ISO14001 の普及を目的に、1 月 25 日に企業向けセミナーを開催した。 講習会又は企業等との合同行事の開催：1 回		企業のニーズにあったセミナー内容の検討し、多数の参加が見込める内容とすることが必要。
		エコオフィスプラン 2006 の運用	平成 18 年 10 月から引き続き、エコオフィスプラン 2006 を運用した。		ISO14001 による管理を行っており、効果的な運営システムへの見直しが必要。

環境意識をみがき上げるまち・・・

プロジェクト	実施主体	目標	実施状況	目標達成	課題等
各種環境啓発の実施	市民	青少年健全育成のための環境学習の実施（廃品回収）	津山市子ども会連合会による廃品回収を行った。		
		イベントでの廃棄物の分別、リサイクルなど市民への啓発の実施	子どもまつり・キャンプ事業では、ゴミ減量を子ども達に啓発し、分別の意識付けを行った。		
	市	環境啓発の実施	親子エコフェスタ 2010 の運営を支援し、環境意識向上に向けた啓発活動を行った。		イベントでの集客を活用して、効果的な啓発活動を行った。
	事業者	市民への啓蒙活動の実施	（財）津山市都市整備公社が環境再生推進事業として、津山納涼ごんごまつり等のイベントを通じ、不用食器のリサイクルシステムの紹介及び不用食器の回収、正しいごみの分別の仕方についての啓発を行った。		イベントでの集客を活用して、効果的な啓発活動を行った。

夏 28 度



子どもの時から学び、共に育つまち・・・

プロジェクト	実施主体	目標	実施状況	目標達成	課題等
環境教育プログラムの作成実施	協働	事業の実施	ワーキンググループを立ち上げ、地球温暖化問題を取り上げた「地球温暖化ひかえー」を作成した。		配布等の広報活動ができていない。
地域での環境学習や環境の取組みの推進	市	「子どもエコクラブ」の加入クラブ数の拡大 エコクラブ会員数： 10クラブ又は 100人以上	環境省が主宰する「子どもエコクラブ」の会員拡大を図り、同クラブ全国事務局から環境情報の提供を行った。 エコクラブ会員数：259人		子どもエコクラブの活動内容の充実

循環

ごみを減らし、資源の循環するまち・・・

プロジェクト	実施主体	目標	実施状況	目標達成	課題等
ごみ減量に関する各種取組みの推進	協働	「つやま・エコ・システム」の維持運営、事業の実施	つやま・エコ・システムを引き続き運営し、平成22年度はエコシールを474,811枚を交付した。 配布目標枚数 400,000枚		エコシステムの更なる周知、及びレジ袋削減などの取組みの強化を検討する必要がある。
		「ごみゼロ新聞」発行回数：3回	ごみゼロ新聞編集委員会を開催し、「ごみゼロ新聞」を6月・10月・2月に発行。ごみ減量化に関する啓発を行った。 「ごみゼロ新聞」発行回数：3回		効果的で、タイムリーなテーマの選定することで、わかりやすい情報提供を行い、市民の意識向上を促す。
リユースに関する各種取組みの推進	協働	施設見学受け入れ小学校数：21校	小学校を対象に施設見学を実施した。 施設見学受け入れ小学校数：21校		
		「くるくる」利用者数及び利用商品数：30,500人 90,000点	エコネットワーク津山が、リユースプラザ津山「くるくる」を受託運営し、不用品のリユースを推進した。また、10月には加茂地域で移動「くるくる」を開催した。 利用者数及び利用商品数： 29,233人・93,358点		
リサイクルに関する各種取組みの推進	市民	地域でのリサイクル事業の実施	旧津山市内の全町内会において、家庭で排出されるカン・ビンの回収を定期的に行い、地域でのリサイクルを推進した。地域住民の力で取組まれており、効果が高い。		町内会に属さない集合住宅の入居者等に対する啓発
		資源回収団体による地域でのリサイクル事業の実施	旧津山市内の子ども会、PTA等の地域の資源回収団体が新聞・雑誌・ダンボール・アルミ缶等の回収を定期的に行い、リサイクルを推進した。		
	市	青空リサイクルプラザの継続実施 回収量：500トン	回収量は目標量に達していないが、新設したウエストランドや比較的回収量が少ないカインズも徐々に回収量が増えている。 回収量：406トン		不況の影響もあり、回収量が伸びていないため、開催日時や場所などについてさらに周知する。
民間集合住宅の入居者に対するリサイクル活動の啓発	市	民間集合住宅の入居者に対するリサイクル活動の啓発	不動産管理事業者の協力を得て、民間集合住宅の入居者に対し、9月と3月にリサイクルカレンダーを配布した。		併せて、ごみ減量、リサイクルについての推進を行う。
		生ごみ処理機補助制度の継続実施 補助件数： 電気式生ごみ処理機140台 コンポスト容器130個	電気式は目標値に満たないが、処理容器の補助個数を見ても、生ごみ処理への意識は高まっていると考えられる。 補助件数： 電気式生ごみ処理機49台 コンポスト容器167個		各処理機の特徴や使い方を分りやすく周知し、家庭での生ごみ処理を推進する。

ごみの野外焼却や不法投棄のないまちづくりの推進	市	不法投棄防止看板の設置、ボランティア袋の配布	不法投棄が問題となっている町内会の要請により、不法投棄防止の看板を随時配布した。また、地域にポイ捨てされたごみを町内会が回収する場合に、無料のごみ袋（ボランティア袋）を随時配布した。		回収しても不法投棄があとを絶たない。効果的な防止対策や監視体制の導入。
身近な公共スペースの環境美化活動の推進	協働	市内主要道路沿いのごみの回収の実施	8月22日に地域住民、建設業協会等の各種団体、市、県が協力し、市内主要道路沿いのごみの回収を実施した。 参加人数：1,600人 平成22年度回収量：約6トン		

エネルギー自立を目指すまち・・・

プロジェクト	実施主体	目標	実施状況	目標達成	課題等
省エネルギーの普及啓発 新エネルギーの普及啓発	協働	普及啓発イベントの実施	6月20日に行われた「親子エコフェスタ2010」の啓発を行った。 イベント参加者数：約1,000人		継続的な普及啓発の実施
	市	省エネルギー啓発の実施	広報つやま・ホームページなどを通じて、「クールビズ」「ウォームビズ」「うちエコ！」などの省エネルギー啓発を行った。また、省エネルギー機器の普及を図るため、ポスターを作製し、販売業者に配布を行った。		



第3章 平成23年度の行動計画

1 年次行動計画の意義

この章では、第1章で述べた環境将来像の実現に向けて、平成23年度の環境施策にかかる計画を示しています。計画策定にあたっては、平成22年度の環境基本計画の実施状況とその評価を基に、より事業効果を上げられるよう、計画の継続的な改善に努めました。



第3章 平成23年度の行動計画
2 「ビジョン」ごとの年次行動計画 … 「自然」

環境将来像 (ビジョン)		プロジェクト	実施主体	事業内容	目標	
水、土、緑、未来につなぐ、わいのまち	きれいな空と大地を守るまち	1	農業や薬品の適正使用及び処理の啓発	協働	JAつやまと市が連携して、農業の適正な使用・処理について市民・事業者・農業事業者へ広報を行う。JAつやまが、期限切れ廃棄農薬の回収処分を実施する。	広報回数:3回 農業の回収回数:1回
		2	大気質や土壌質のデータ調査及び公表	市・県	岡山県環境保健センターの大気測定局の測定データを活用し、大気質を判定する。市内の地下水質を測定し、土壌質を判定する。	環境基準の達成
	川面に吹く風の心地よいまち	3	生活排水による水質汚濁の防止	市	公共下水道整備事業を継続実施する。合併処理浄化処理槽設置補助事業を継続実施する。	下水道普及率:35.5% 合併処理浄化槽設置補助基数:320基
		4	河川清掃の実施	協働	河川清掃を継続実施する。	河川清掃参加人数:3,500人
		5	自然体験学習の実施	協働	自然体験プロジェクト「水の学校」の参加を小学校に呼びかけ、継続実施する。	参加人数:50人
		6	公共下水道の啓発	市	夏休み親子下水道教室を開催する。下水道浄化センターの見学を受け入れ、下水道の役割と啓蒙を図る。	下水道教室参加親子数:20組 浄化センター見学人数:500人
		7	河川等の水質測定及び測定結果の公表	市	主要河川17地点及び市内中小河川51地点の水質測定を継続実施する。	河川水質の環境基準の達成
	心のふるさと里山里地の豊かなまち	8	植林地の管理	市・県	私有林の間伐を継続実施する。森林整備地域活動支援事業を継続実施する。	間伐面積:530ha 森林整備面積:4,842.0ha
		9	遊休農地の活用推進	協働	「市民農園」の運営を行う。	一斉清掃、収穫祭の開催、事業の実施
				市	遊休農地を把握し、地域の農業者の理解と合意の下に、認定農業者等へ貸し付けることにより遊休農地の解消及び利用集積を促進する。	和牛放牧モデル事業(遊休農地の活用)の実施
	10	自然体験学習の実施	協働	自然体験プロジェクト「森の学校」を継続実施する。	参加人数:各30人(合計60人)	
11	学校給食に地場産食材利用の充実	市	小学校で地場産食材を利用した献立を継続して取り入れる。	地場産食材年間利用商品数:38%		
消滅のまち	未来を拓く、地産地消のまち					

第3章 平成23年度の行動計画
2 「ビジョン」ごとの年次行動計画 … 「まち」

環境将来像 (ビジョン)		プロジェクト	実施主体	事業内容	目標	
水、土、緑、未来につなぐ、わいのまち	安全安心で活気あふれる楽しいまち	12	快適な音や匂いのある環境の整備	市	主要道路沿いと住宅地等の騒音測定を継続実施する。	環境基準の達成
		13	公共交通の整備・利用の促進	市	平成21年度に策定した「津山市地域公共交通総合連携計画」に基づき、実証運行等を実施する。	実証運行の開始
	住んでみたいまち					
	環境と歩行者を優先するまち					

第3章 平成23年度の行動計画
2 「ビジョン」ごとの年次行動計画 …「ひと」

環境将来像 (ビジョン)		プロジェクト	実施主体	事業内容	目標		
水、土、緑、未来につなぐにぎわいのまち	ライフスタイルを見直す、心と体の元気なエコ津山人の活躍するまち	交人や情報 を流すまち	14	市民参画、参加による環境基本計画の推進	協働	「環境基本計画推進組織エコネットワーク津山」の運営の支援を行う。	事業の実施
			15	環境基本計画に係る年次行動計画・年次報告書の策定と公表	市	年次行動計画・年次報告書を策定し、公表する。	事業の実施
		環境意識をみがき上げるまち	16	環境マネジメントシステムの普及	市	市内ISO14001認証取得企業及び津山圏域工業会加入企業等を対象にISO14001の規格改訂への対応や認証取得に役立つことを目的に講習会又は企業等との合同行事を開催する。	事業の実施
				17	各種環境啓発の推進	市民	津山市子ども連合会による事業において、環境学習を実施する。 津山市子ども連合会による廃品回収を行う。
			事業者			(財)津山市都市整備公社が環境再生推進事業として、環境問題及びごみの減量、リサイクル等について市民を中心に広く啓発啓発活動を行う。	事業の実施
			市	イベント等の開催に合わせ、広く環境啓発を行う。児童向け啓発事業として、出前講座を実施する。	事業の実施 出前講座の開催回数:6回		
		子供 の時から学び 共に育つまち	18	地域での環境学習や環境の取組みの推進	市	(財)日本環境協会が主宰する「子どもエコクラブ」の会員拡大を図る。 環境活動を実行できる市民を育てるための環境教育プログラムを作成する。	事業の実施 事業の実施

第3章 平成23年度の行動計画
2 「ビジョン」ごとの年次行動計画 …「循環」

環境将来像 (ビジョン)		プロジェクト	実施主体	事業内容	目標		
水、土、緑、未来につなぐにぎわいのまち	資源とエネルギーの廻るまち	ごみを減らし、 資源の循環するまち	19	ごみ減量に関する各種取組みの推進	協働	「つやま・エコ・システム」を引き続き運営し、レジ袋削減を推進する。 ごみゼロ新聞編集委員会を開催、「ごみゼロ新聞」を発行する。	エコシール配布枚数:400,000枚 新聞発行回数:3回
				市	処分場などの施設見学を受け入れ、市民・児童の環境学習を援助する。	施設見学受け入れ団体数:21校	
		20	リユースに関する各種取組みの推進	協働	リユースプラザ津山「くるくる」を運営し、不用品の再利用(リユース)を推進する。 移動「くるくる」を実施する。	利用者数及び利用商品数:30,000人 事業の実施	
				21	リサイクルに関する各種取組みの推進	市民	旧津山市内の全町内会において、家庭で排出されるカン・ピンの回収を定期的に行い、地域でのリサイクルを推進する。 旧津山市内の子ども会、PTAなどの地域の資源回収団体が新聞・雑誌・ダンボール・アルミ缶・古布等の廃品回収を定期的に行い、地域でのリサイクルを推進する。
		市	青空リサイクルプラザを継続開催し、家庭で排出される再資源化物の回収を行う。 民間集合住宅の入居者に対し、リサイクル活動を促す啓発チラシを配布する。 生ごみ処理機の補助事業を継続実施する。			回収量:450トン 事業の実施 補助件数:電気式生ごみ処理機140台 コンポスト容器130個	
		22	身近な公共スペースの環境美化活動の推進	協働	地域住民、建設業協会等の各種団体、市、県が協力し合い、市内主要道路沿いのごみの回収を実施する。	事業の実施	
23	エネルギー自立 を目指すまち	省エネルギーの普及啓発 新エネルギーの普及啓発	協働	省エネルギー・新エネルギーについて、各種イベントなどで環境ヒーロー「津山太助となかまたち」を活用し、地球温暖化対策の普及啓発を行う。	事業の実施		

津山市の環境報告書

平成23年度版

平成23年11月発行

発行 津山市環境福祉部環境生活課

〒708-8501 津山市山北520番地

T E L (0868) 32-2051 (直通)

F A X (0868) 32-2158

e-mail : kankyou@city.tsuyama.okayama.jp

この環境報告書について、ご意見ご感想をお寄せください。

